

前回の協議会の振り返り

【第5回】 野洲川地域安全協議会の意見・回答とその対応		1/1
意見・回答（第5回 野洲川地域安全協議会 議事概要）	対応	
<p>①</p> <p style="text-align: right;"> 意見 回答 </p> <p><湖南市></p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ ソフト対策の規模が1/1,000でハード対策の規模はいくらなのか。</p> <p><琵琶湖河川事務所></p> <p style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">・ ソフト対策は1/1,000確率規模、ハード対策は概ね20年から30年を目安として計画対象期間を定めている河川整備計画の規模としている。</p> <p>②</p> <p><湖南市></p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ 1,000年確率というソフト対策も含めて、その裏付けとなるハード対策も1,000年確率を基準にして考えているのか。法的な縛りなど含めてわかるように説明いただく場をお願いしたい。</p> <p><琵琶湖河川事務所></p> <p style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">・ 改めて担当者会議の場などで説明させていただく。</p> <p>③</p> <p><草津市></p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ 概ね20年から30年を目標とした整備計画規模に基づいて、河川の掘削など改修を行っているが、どれだけの確率を想定しているのか。</p> <p><事務局></p> <p style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">・ 改めて確認した上で今後報告させていただく。</p> <p>④</p> <p><野洲市></p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ 湖南市の想定浸水深表示板設置事業で行っている表示板は、想定浸水深の高さに設定しているのか。</p> <p><湖南市></p> <p style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">・ 市民の皆さんが見やすい高さに設置している。</p>	<p>【対応①】【対応②】【対応③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野洲川の河川整備における将来計画の規模は100年確率である。 当面の目標である整備計画では戦後最大洪水である昭和28年台風13号と同規模の洪水を目標としており、確率規模とすると、概ね10年から20年の規模である。 整備計画の整備期間は概ね20年から30年である。 現状の野洲川は、計画規模洪水を安全に流下させるために必要な整備を行うこととしているため、計画に基づく掘削は行っていないが、堆積により顕著な河床の上昇が認められる場合には維持掘削を行う。 社会資本整備審議会河川分科会 気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会において、気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について検討が行われ、令和2年7月に答申された。答申では、あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換を推進し、防災・減災が主体となる社会を目指すことが示された。 令和3年8月に策定された淀川水系河川整備計画において、いかなる洪水に対しても氾濫被害をできる限り最小化するため、施設能力を上回る洪水の発生を想定し危機管理体制の構築・強化を行うこととしている。このため、河川管理者、自治体、住民等から構成される「水害に強い地域づくり協議会（大規模氾濫減災対策協議会）」において、関係者の連携のもと、1）自分で守る、2）みんなで守る、3）地域で守るの観点から危機管理施策を実施することとして、公共施設等の耐水化や水害に強いまちづくり等を進めることとしている。 <p>【対応④】</p> <p>協議会で対応済み</p>	